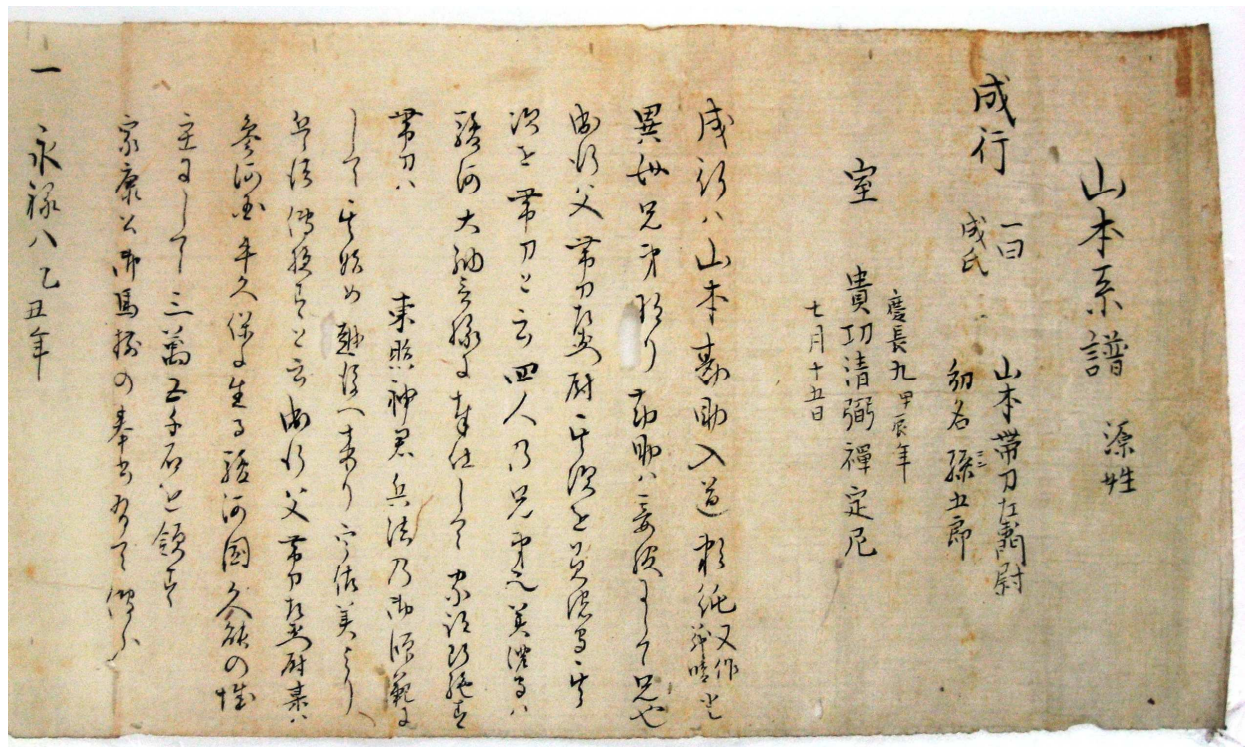


長岡 あーかいぶす 第 4 号

発行/長岡市立中央図書館文書資料室 <http://www.lib.city.nagaoka.niigata.jp/monjo/index.htm>



所蔵資料紹介(4)「山本系譜」

放映中のNHK大河ドラマ「風林火山」の主人公・山本勘助。その山本勘助が、長岡藩主牧野氏の三河以来の重臣で、家老をつとめた山本勘右衛門(帯刀)家と縁戚関係にあるとする古文書がある。「山本系譜」(相沢富士雄家文書、縦 22.0×横 155.0cm)である。

「山本系譜」冒頭の成行の項によれば、成行は山本勘助の異母弟で、勘助・成行・美濃守・帯刀の四人兄弟であった。この冒頭部分に続き、「山本系譜」は、①成行(慶長9年没)の永禄8年(1565)の事跡から、②某(勘右衛門)、③成政(勘右衛門子)、④某(今泉佐左衛門、成政弟)、⑤政直(成政子)の5名の事跡までを断片的に記している。作成年代や作成理由は不明。一番新しい記事は天和2年(1682)である。なお、「諸士由緒記」(長岡市史双書No.15所収)も山本勘右衛門家を「山本勘介同家」とする。

▲「山本系譜」冒頭部分。「成行」「山本勘助入道」「異母兄弟」「宇佐美」の文字が見える。

ところで、「山本系譜」には、成行の末弟・帯刀が越後へ行き、「宇佐美」より兵法を伝授され、後に徳川家康の兵法師範になったという記述がある。「宇佐美」は、紀州藩の軍学者となり、越後流軍学を指南した宇佐美家に関わる人物を指すと考えられる。近年の研究で、宇佐美家は山本勘助が活躍する『甲陽軍艦』の編さんにも関わっていたことが指摘されている(高橋修『【異説】もうひとつの川中島合戦』、洋泉社)。山本勘助と「山本系譜」の接点となる、注目すべき記述である。

戊辰戦争後、山本家は戦争首謀者として家名断絶になった。山本家再興のため、高野家から入嗣した山本五十六は、相続当日、徹夜して先祖代々の過去帖を浄書したという(反町栄一『人間 山本五十六』上、光和堂)。そこにも山本勘助の名前があったのか。「山本系譜」をめぐる興味は尽きない。(田中洋史)

文書資料室ニュース

●合併市町村の公文書整理を始めました

公文書には保存年限があり、それを経過した文書は廃棄することになっています。しかし、中には、災害やイベントの記録など貴重な公文書も多くあるため、歴史的資料として選別し保存する作業を始めました。合併で市町村名がなくなっても、保存した公文書が市や町や村の歴史を語り継ぎます。

今年度は、与板・三島・寺泊・越路支所で整理作業を予定しています。公文書は市民の財産であることを念頭に入れスタッフ一冊ずつ慎重な整理作業を行っています。

(星純子)



▲公文書整理作業（5月14日）

これは保存？廃棄？合併市町村の貴重な資料に触れ、歴史の重みと重責を感じています。

難しいですが、歴史的資料に直に触れられる責任感とよろこびを感じています！



(桜井奈穂子)



(薮澤梓)

●安禅寺文書から見つけた！三島の職人

三島地域は職人のまちとして有名です。その三島地域にいた江戸時代の職人が、安禅寺文書に見られます。蔵王権現の社頭移転工事の際、正徳4年(1714)7月22日から脇野町の塗師・松右衛門がやってきました。その日以降たびたび登場し、金柱の上塗をしたり、仏像を安置する台に塗る漆をこしらえたりしています。こうした職人の作業内容は、新刊の長岡市史双書No.46『蔵王権現領安禅寺御用記(2)』で知ることができます。



松右衛門



塗師脇野



(小林良子)

●写真に見る長岡市100年のあゆみ ～伐採の危機を迎えていた福島江の桜～

今回は『長岡市政100年のあゆみ』に掲載できなかった1枚の写真を紹介しします。写真は昭和18年(1943)ころの福島江の桜です。毎年、私たちを楽しませてくれる桜並木ですが、このころは戦時下のため全部を伐採する話があり、なくなる危機を迎えていました。もしかしたら最後の姿となったかもしれないと思うと、ちょっと感慨深くなります(駒野廣治の尽力で後世に残されました)。

(金垣孝二)



▲山岸利光氏文書(文書資料室蔵)

「郷土長岡を創った人びと」の 情報を集めています！

平成 20 年度に新長岡市のまちづくりに貢献した人物を紹介する冊子『郷土長岡を創った人びと（仮称）』を発刊します。

この取り組みは、地域のまちづくりに貢献した人々を市民のみなさんに紹介し、自分たちのまちへの誇りと新長岡市への親しみを持ってもらうことを目的としています。

昨年 11 月 20 日に第 1 回『郷土長岡を創った人びと（仮称）』選定委員会を開催。その後「ながおか市政だより」1 月号で広く人物情報の提供を呼びかけ、お寄せいただいた多くの情報を参考に「郷土長岡を創った人びと」第 1 次人物選定案が 3 月末にまとまりました。現在、この選定案をもとに再度、人物情報の提供を市民のみなさんに呼びかけています。

体裁・目次などは決まっていますが（今



▲チラシ

年度設置予定の編集委員会で決定)、おもしろい冊子になることは間違いなし？！です。どうぞ発行を楽しみにしててください。



(金垣孝二)

平成 18 年度の閲覧室利用者数と行事

平成 18 年度の閲覧室の利用者と行事の参加者は合わせて、延べ 2,113 人でした。行事等が増えているため単純に比較できませんが、前年度の延べ 1,776 人よりも 337 人増加しました。

古文書講座は、昼間の初心者向けの古文書講座「チャレンジ！古文書」と、長岡郷土史研究会と共催の夜間の「古文書解読講座」があります。また、長岡市政出前講座を三島地域で 4 回開催しました。『長岡市政 100 年のあゆみ』を読む会では、長岡の近現代史に触れました。中越大震災で被災した歴史的資料の整理を行う長岡市資料整理ボランティアは、古文書・近現代チームそれぞれ月 2 回程度活動しています。歴史資料所在確認調査は、小国・大積・関原・山古志で 4 回行いました。

『郷土長岡を創った人びと（仮称）』選定委員

役職名	氏 名	地 域
委員（知識経験者）	今井 雄介	長岡 ◎
委員（知識経験者）	桑野 なみ	長岡
委員（知識経験者）	古田島 吉輝	長岡 ○
委員（知識経験者）	松本 和明	長岡
委員（地域代表者）	小越 忠教	寺泊
委員（地域代表者）	小林 芳郎	長岡
委員（地域代表者）	佐藤 誠一	山古志
委員（地域代表者）	嶋田 進	栃尾
委員（地域代表者）	高橋 実	小国
委員（地域代表者）	内藤 孝	越路
委員（地域代表者）	難波 正	三島
委員（地域代表者）	服部 三夫	与板
委員（地域代表者）	羽鳥 仁一	和島
委員（地域代表者）	原 銑之助	中之島

◎ 委員長、○副委員（順不同、敬省略）

身近に伝わる郷土の恩人、まちづくりの先人の 情報をお寄せください

第 1 次人物選定案を掲載したチラシを市内各図書館、各支所、市民センター、市役所本庁 1 階市民の声情報室に設置しています。「まだまだこんな人物がいる」といった情報がありましたら、6 月 30 日（土）までにお寄せください（情報提供はチラシにある「人物情報カード」でお願いします）。

平成 18 年度文書資料室利用状況（人）

来室者数		772
行事等参加者数	古文書解読講座	523
	チャレンジ！古文書	159
	長岡市政出前講座・チャレンジ！古文書	29
	『長岡市政 100 年のあゆみ』を読む会	216
	長岡市資料整理ボランティア	350
	歴史資料所在確認調査	64
合計		2,113



(稲垣美知子)

シリーズ 災害と文書資料室（４） 災害の記録

文書資料室の震災後の取り組みのうち地震によって生まれた災害記録の収集保存について紹介します。

避難所へ寄せられた資料の収集

震災の際、避難所となった学校へ震災関連資料の提供を呼びかけました。それに対し石坂小学校が市外の学校から届けられた励ましのメッセージ等を寄贈してくれました。当室では目録を作成し、大切に保存しています。

▼石坂小学校の寄贈文書目録（抜粋）

資料番号	表 題	作成者	形態	数量
172	長岡市立石坂小学校全校のみなさん	世田谷区立駒沢小学校	手 紙	1
178	応援メッセージ	赤穂市立塩屋小学校	ポスター	4



▲資料番号 178 の応援メッセージ

目録を見ると全国に応援の輪が広がっていたことがわかります。子どもたちが大きくなって、困難にぶつかった時などに文書資料室を訪れてほしいと思います。この資料を見て、仲間とあのつらかった時を乗り越えてきたことを思い出してほしいと思います。

新聞資料の収集

震災直後からの新聞を 11 紙収集しています。地震から 1 年間に震災関係を取り上げた記事の件数が何件くらいあると思いますか。以下の件数は、内部資料として主な新聞の見出しを目録にしたものです。

新潟日報 4,751 件、産経新聞 998 件、朝日新聞 633 件、読売新聞 854 件、日本経済新聞 416 件、毎日新聞 1,144 件
各社とも 1 日に少なくとも 1 回は取り上げていることになります。新聞は震災・復興の様子を詳細に伝える貴重な資料です（保管スペースに苦勞していますが・・・）。

団体の取り組みをまとめた冊子資料の収集

各種団体から、地震に関する取り組みをまとめた冊子・報告書を寄贈していただいています。それぞれの分野で色々な活動をしていることがわかります。冊子は文書資料室で閲覧できますので、ご利用ください。

寄贈していただいた冊子の一部をご紹介します。

- ①『まんさくの里栃尾に大地の牙 被災者の声』〔中越大震災栃尾地域仮設住宅団地区〕
- ②『新潟県中越大震災 四郎丸地区の記録』〔長岡市防犯協会四郎丸支部〕
- ③『新潟県中越大震災と長岡歯科医師会』〔(社)長岡歯科医師会〕



▲写真左①、中央②、右③

メモやチラシなどちょっとしたものも災害・復興の資料です。

提供の方法として、寄贈のほかに寄託（一定の期間文書資料室が預かり、期間終了後は所蔵者へお返しする方法）、複写（原本を複写後所蔵者へお返しする方法）があります。

また、公開にあたり個人のプライバシーに関わる事項がある場合もご相談ください。所蔵者のご意向を十分に尊重したいと考えています。

災害の経験や教訓を後世に伝えるために、記録・資料の提供をお願いします



（星純子）

連載 長岡の碩学（４）

星山 貢 1894.11.23～1942.5.12

新潟県立図書館に『星山加壽子古稀賀集』が架蔵されている。『蔵王大権現及王神史』や『円融寺記』などを著わした星山貢(みつぐ)が母の70歳を祝って、昭和10年(1935)に作成した。「星山家」「星山慶太郎・かず子略伝」「貢自伝」「源姓星山系図」等で構成されるこの小冊子をひも解きながら、長岡における郷土史研究の先駆者の一人、星山貢の足跡をたどってみたい。

星山貢は、明治27年(1894)11月23日に星山慶太郎の長男として中蒲原郡大江山村大字江口（現新潟市東区）に生まれた。命名は新嘗祭に因む。星山家は庄屋を務め、村民から「オヤサマ」と呼ばれる家柄であった。

亀田町高等小学校卒業。中蒲原郡養蚕業同組合立蚕業講習所、蛭雪校（新潟市、佐藤莊松主宰）を経て、明治42年に加茂農林学校へ入学。同44年に農科へ進むが翌年、病気休学。1年で復学し、大正3年(1914)春に卒業。三菱の新潟事務所に就職した。

しかし、同年秋には「父が官を好んで」新潟県移出米検査所に転じ、佐渡両津支所、五泉出張所米券倉庫、与板支所に勤務したが大正5年に退職。北魚沼郡川口村中山の古田島家の農業技術員となった。大正6年に古志郡富曾亀村農業技術員、同7年に佐渡農会、同8年に大江山村農会へ。大江山村農会では出身地・江口の機屋と協力して電灯を付け、麦作団地や江口青年図書館を設けた。大正12年に古志郡農会へ移り、同14年に長岡市農会へ勤務。仕事と研究の両面で、星山と長岡との本格的な関わりが始まった。

星山は幼少期に読書に親しみ、加茂農林学校農科休学中に生け花と詩経を、新潟県移出米検査所時代にドイツ語・謡曲・茶道を学んだ。星山の好学は多忙な長岡時代にも衰えず、むしろ精力的に進められた。

長岡市農会では、昭和2年(1927)に長岡市場協会を設立した。同年には長岡市農会20周年記念出版『都市農業の本質と経営法 附録長岡市農会史』を著し、教授を嘱託された新保農業補習学校の教科書とした。

昭和3年、長岡市勸業課長に就任。昭和6年9月1日の上越線全線開通(宮内―高崎間)を記念して開催された博覧会では出品部・宣伝部を担当。開催翌年に刊行された『長岡市

主催 上越線全通記念博覧会誌』は星山の編集によるものである。口絵150頁・本文696頁・附録(日誌、役員・職員・出品人名簿)120頁からなる大冊である。

この頃から、星山は現在の長岡市堀金に住みながら、歴史・民俗等に関する著作・論稿を次々と発表した。『新潟県長岡市割地其他農政資料』(昭和4年、私家版)、『長岡藩領土地売買証文集』(昭和8年、私家版)、『長岡と雪』(昭和8年、長岡市役所)、『円融寺記』(昭和9年、目黒書店)、『蔵王大権現及王神史』(昭和12年、日本書房)などである。平潟神社にある昭和11年建立の宗良親王戦勝碑の撰文(『県社平潟神社写真帖』)も星山による。

農業を学んだ星山が郷土史研究に取り組んだ動機は、はっきりとはわからない。『円融寺記』に序文を寄せた黒正巖(京都帝国大学教授)は、星山との数年来の交友を「私が百姓一揆の研究を企つるに当り、新潟県下に於ける百姓一揆の資料を提供し、示教を与えられたるに初る」とする。農村を歩く中で郷土史研究を志すきっかけがあったのだろうか。

昭和14年に新潟県商業組合へ転じた星山は、昭和17年5月12日に新潟市で死去。享年47歳。遺著は『河井継之助』(昭和17年、三教出版)。日本市場史、越後農業史、蒐集した方言2,500語の公刊を夢見ていたという。

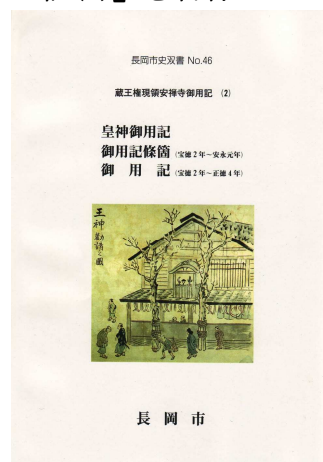
星山の業績は、市史編さんの際にも大いに活用されたが、その足跡は長岡では余り知られていない。星山の足跡を長岡の史学史に位置づけ、その業績を批判的に継承することが今後の課題である。

(田中洋史)



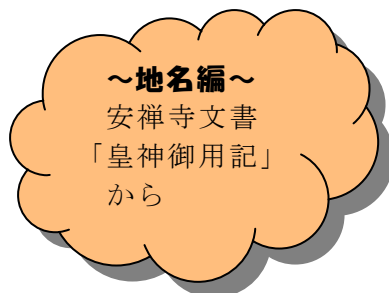
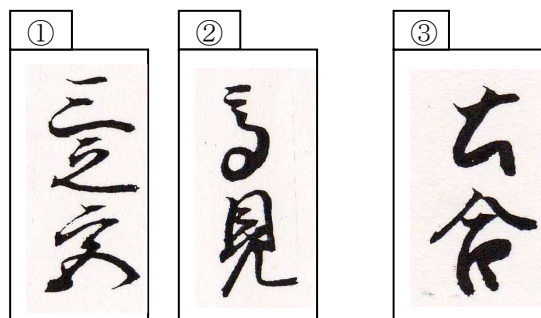
インフォメーション

●長岡市史双書No.46『蔵王権現領安禅寺御用記(2)』を刊行しました！



星山貢が『蔵王権現及王神史』で分析した皇神御用記をはじめ、河村検地帳、社堂の移転工事・年中行事の記録等を収録

頒布価格 1,500 円
B5判 267 ページ
※文書資料室、
市内各書店で
好評販売中！



①～③の読みと住所・氏名・電話番号を記入のうえ、はがき・FAX・メールで文書資料室へお送り下さい。3問すべてに正解した方の中から抽選で5名に粗品を差し上げます。

平成19年8月1日(水)必着です。なお、当選は賞品の発送をもってかえさせていただきます。【前回の答え】

① こんふ(こんぶ) ② ひじき ③ 酢

《新たに公開した所蔵資料一覧》 ※寄贈・購入年月日順

- ・山古志小学校文書(現代、28点、山古志小学校寄贈)
- ・山古志中学校文書(現代、187点、山古志中学校寄贈)
- ・昭和16年長岡市地図(近代、1点、佐藤博之氏寄贈)
- ・多田家文書(現代、5点、多田克美氏寄贈)
- ・写真アルバム(近代、2点、山岸利光氏寄贈)
- ・古志郡釜ヶ島汁粉王佐藤三吉関係資料(近代、2点、佐藤喜久一氏寄贈)
- ・軍馬購買関係資料(近代、1点、金子雅晴氏寄贈)
- ・雑誌『実業之日本』『農政』他(近代・現代、396点、山崎忠彌氏寄贈)

●資料整理ボランティア短信

冬の間お休みしていた資料整理ボランティアの活動を、3月から再開しました。3月・4月は、庄屋の家・酒造をしていた家等の資料を整理しました。文書についているほこりや虫の死骸を落としたり、古い看板を拭いた

りするクリーニング作業も行いました。3月・4月は延べ101人の皆様からご参加いただきました。毎回和気あいあいと活動しています。資料整理ボランティアは随時募集していますのでお気軽にお問い合わせください。



▲新聞紙の上でほこりを落とします
(4月25日、浦瀬町資料整理室)



▲刷毛で古文書についているごみ・虫をはらいます
(4月25日、浦瀬町資料整理室)

《編集後記》▽5月からスタッフが2人増えました。桜井奈穂子嘱託員と薙澤梓嘱託員です。パワーアップした文書資料室をどうぞよろしくお願い申し上げます。▽古文書から見つけた江戸時代の三島地域の職人についてご紹介しました。地域の方に喜んでもらえたり郷土への愛着や誇りを深めてもらえたりできるように歴史的資料を活用することは資料を扱う者の責務のひとつだと思います。(小林良子)

平成19年6月1日発行

編集・発行：長岡市立中央図書館文書資料室
スタッフ／金垣孝二、星純子、稲垣美知子、
小林良子、桜井奈穂子、田中洋史、
薙澤 梓

〒940-0065 新潟県長岡市坂之上町 3-1-20
(長岡市立互尊文庫2階)

TEL 0258-36-7832、Fax 0258-37-3754

E-mail: monjo@nct9.ne.jp